

清潔な自由・美しい日本

一九七六年を迎えて

理事長 柳沢錬造

一九七六年という、新しい年を迎えましたが、本年も依然として、厳しい情勢がつきそうです。

特に、最近の情勢は、世界の動きに無関係で、日本の国も存在できなくなっており、一昨年秋頃から日本経済が急転直下悪化したのも、国際情勢の激変のあおりを受けた結果であり、この不況は世界的なもので、簡単には回復しないでしょう。

加へて、国際情勢の大きな変化は昨年南ベトナムからアメリカ軍が撤退したら、またたく間に南ベトナムは北の革命軍に占領されてしまい、南ベトナムという国は崩壊してしまいました。隣のラオス、カンボチャも革命軍に握られてしまい、その上、東南アジアの国々の外交政策も変化を始めました。

この影響が、日本にどう現れてくるか、それが本年の大きな課題となるでしょう。

そのような情勢の中で、昨年六月二十八日「国際MRA日本協会」を誕生させて以来、毎月常任



理事会を開き、八月のスイスのMRA世界大会には、鶴田重蔵常任理事以下十名の代表団をおくり、十月の中国(台湾)の大会には、相馬雪香常任理事以下七名の代表団をおくり、

本年一月のオーストラリアの大会には、杉田次副会長以下三名の代表団を派遣しています。

また、事業計画を決定すると共に、財政強化のため有志から毎月五〇〇〇円カンパを集め、十一月より青年講座を開設して、毎月一回研修会を開き、活動強化のため佐藤魁常任理事を理事長代行と決め、スローガンも「清潔な自由、美しい日本」と決めるなどして、活動を展開してきました。

でも、まだこの勢力は小さいです。今日の混乱、混乱した危機に対処するには、力不足です。いま、お互いに認識しなくてはならないことは、沈みかけていく船の中で、自分の部屋だけ綺麗に飾って楽しんでいても、船が沈んでしまったら終りであり、その後で、誰が悪いんだと批判をし、責任を追及しても、沈んだ船は元に戻すことはできません。

いま、必要なことは、戦後三十年、こゝまで築きあげた日本の国を崩壊させないことであり、そのために国家も、個人も、目標をもつことです。みんなが生きる目標をもって、国家の将来に対して、何らかの役割を果たすことです。どんな人にも役割はあるものです。何をやるかは、静かになって、神の声、心の声をきいて決め、実践することです。それはMRAのためにするのではなく、一億国民が乗っている、この船を沈めないために果たす責任のことです。

「清潔な自由、美しい日本」をめざして、日本の道しるべとなりましょう。

“太平洋地域の将来”

二十五ヶ国が参加して オーストラリア大会開く

本年一月三日より十日まで、オーストラリアの首都キャンベラで、MRA西太平洋大会が開かれ、日本からは杉田一次副会長、相馬雪香常任理事、本郷富士子常任理事の三名が出席したが、十一日朝六時六分着、JAL七七二便で、相馬、本郷両理事が帰国したので、羽田でインタビューをした。

——今回の大会の目的は何であり、参加者はどの位か。

「オーストラリアのMRA西太平洋大会といつて、参加国は



二十五ヶ国、約三〇〇名が出席

した。会場は、キャンベラのカトリックの学校「ホール三世大学」で開かれた。

テーマは「太平洋地域の将来」と題して、太平洋の地図を毎日眺めながら、ミーティングは進められた。

——この大会には、主にどんな

新生パプアの希望

——そのパプアとは、昨年独立した国で。

「そう。パプアニューギニア

は種族が一〇〇〇、言語が七〇〇もあり、分断されていたためジャングルの高地に住んでいる民族は、四〇年前迄は、昔の石器時代のま、のような生活をしてきたとのことで、昨年九月十日、三十六才のソマーレさんが首相となって独立した国で、人口は

な人が参加したのか。

「オーストラリアの労働党内閣のときの文部大臣、キム・ピーズレーさんを始め、スリランカの大使、エジプトの大使、南アフリカの外交官、日本の岡田代理大使夫人など。

それにパプアニューギニアからも六名が参加していた。」

二五〇万であるという」

——そのパプアの人々は、どんな話をしてきたのか。

「ソマーレ首相は、若いが信望を集めている人で、日本軍に占領されている時はまだ小さな子供であつて、日本の学校で初等教育を受けた人で、ニューギニアは地理的にも、戦略的にも、極めて重要な場所にあるので、ソマーレ首相は物質主義に荒ら



MRA青年の献身的奉任

——パプアの独立は早くやれたのですか。

「オーストラリア、アメリカの青年が、長い間パプアに住みついて、独立のために奉任をしていた。」

あるオーストラリアの青年が話してくれたが、パプアに行ったら、パプアの指導者が「われわれが白人を憎んではいけないという理由があるか、あつたら教えてくれ」と、いわれた時、恨まれるのは当然だと気がついて、パプアのために捧げようという決意し、奉仕をして来た。」

——MRAの平和部隊のようなものか。

「そう、これは十年前、インドのラジモハン・ガンジーが、オーストラリアなど各国から、

されたくない、道義を基盤とした国にしたい、といっているところである。

話を聞いていて、日本が太平洋の少数民族に対して責任を果しているのか、たゞ資源を得る目的だけでつきあうのはいけない、何らかの責任をとるべきだと強く感じた」

五十名の青年をインドに集めて訓練をした人々で、今回の大会の中心も、この青年達であつた。

日本人がよく知っている、ロサンゼルスの子ジョージ・イーストマンの孫娘は、アメリカを出て十年間も、オーストラリア、パプアで奉仕をしており、ある青年は、自分はこれから二十五年間奉仕する、どこにも行く、とのべており、感激した」

——スターン・シェパードさんは。

「彼は、ソングオブアジア」と一語になってヨーロッパ各地を歩いており、オーストラリアにはもう十年以上も帰っていない」

オーストラリアの対日観

——杉田副会長は、お元気でしたか。

「杉田さんも、すばらしいお話をしてくれました。杉田さんが前からいっていた、太平洋地域の安全は、日本、ニュージールランドを含むオーストラリア、インドが要点であるというお話をし、ソ連は潜水艦を世界で一番多くもっており、太平洋にも相当来ているのであって、日本はもっと平和のために考えなくてはまず／＼不信をかう。そのためにはMRAを基盤にするしかない。」

「マッカーサーは「老兵は消えるのみ」といったが、私は消えない、一兵卒になって闘う、と語り、各国の皆さんに深い感銘を与えた。」



また杉田さんは、戦死者の記念塔に参り花輪を捧げたが、これが新聞の一面に大きく取上げられ、日本の軍人がオーストラリアで歓迎されたのは、杉田さんが初めてである、と報じていた。」

——オーストラリアの対日観はどうでしたか。

「日本が石炭を沢山買っているの、港にコンビナートを造って輸出をして喜んでいるが、」

パプアの対日観

「日本に何がしてほしいか、と聞くと、道路、学校を作してほしい、船がほしい、という。銅やココアが出るが、外国の船で運んでしまう。パプア経済を助けるための会社が作られたらとおもう。」

また中国（北京）は、パプアに対して、余った銅は、全部引きうけるということ、申出てきているそうで、思想がなければ独立しても意味がない、といった。」

——ベトナム後の影響は、何

日本が資源問題でもっとよこせといつて攻撃してくるのではなか、と恐れてもいる。」

また日本人学校が、メルボルン、シドニーにあるが、日本人だけで固まってしまっており、もっと土地の人々と交ってほしい、ともいっていた。」

また戦争中に泰緬鉄道の建設で働かされて死んだ人の家族も来ていたが、MRAのお蔭で心の精算が出来ました、と感謝していた。」

——パプアの日本に対する考へ方は。

かなかったか。

「特になかった。大会中に、周恩来首相の死去のニュースを知らされて、誰が次の指導者になるのか、今後の影響がどう出るか、ということもあったが、それよりも、われわれは太平洋で何をなすべきか、であり、大切なのは、国の思想が、愛か、憎しみか、と話しあった。」

——大会の運営は。

「大会は、九時からグループミーティングがあり、十時半から大きなミーティングが開かれる、」

午後は見学か、特別ミーティングがもたれ、夜は映画が上映されていた。」

——オーストラリアのキム・ビーズレーさんは、どんなお話をしたか。

「教育の問題を中心によく話をしていた。労働党内閣の時に、土民の言葉を残しておくために、二ヶ国語を教育していたという。」

アジアの歌声を日本へ

——その他、大会を通じての特徴は。

「ソングオブアジアが、ヨーロッパの各地で、どんな活躍をしたか、の報告があつて、これに対して、カナダの代表から、ソングオブアジアをカナダに招待したい、という発言がなされた。」

また本郷さんも、無私になると神の導きがあり確信がもてる、と、ソングオブアジアを日本に招きたい、と確信をのべた。」

——大会は成功だった。

「勿論、大会は成功であったし、この大会に出席できたことを、本当に感謝している。」

昨年は国際婦人年で、どの会議でも勇しいご婦人とはかり会

そして、教育の目的は、無私の人間をつくることであつて、それをどうやってつくるかが、重要であり、聖霊のイデオロギーというか、作られた文化でなく、神の文化、心の声に従つて動くことである、といつていた。

人間の良心によって世界は作られる、と。」

ついで、要求の議論ばかりをしていたが、このキャンベラ大会では、みんなシットリとした人達で、こゝでは要求でなく、奉仕の話しあいをしていった。このような人達を中心になれば、すばらしい世界が誕生すると確信もてた。本当に心が洗われるような気持ちであつた。」

——たしかに要求からは満足できないのであつて、感謝の気持ちをもつたときに、人間の心は満たされることを知らなくては。どうも有難う。

(終)

訪韓記

早田 明由

一衣帯水の隣国でありながら、初めて訪れた大極旗と木槿の花に代表される韓国は、いま着実に近代化への道を辿っている、アジアにおける産業国家である。

乏しい中で叡智と勤労

そこには乏しい資源、乏しい財源を自覚し、持てる三千五百万の人々の叡智と勤労を、国家の建設と発展に結集した、バイタリティ溢れる盟友の姿を眼のあたりに見たのである。嘗て日本が、ある時期に経験したプロセスにも似た姿であろうか。



機会を得て、九州MRA協会、訪韓研修団二十名は、韓国MRA本部において、常任指導者の方々ははじめ、会員多数の皆様と膝を交え、交流することができた。

また識者の方たちによる講演会等、韓国の現況、韓国から見た日本、政治、経済、歴史、文化と余すところなく論述され、韓国MRA運動が、驚異に値する発展と、その思想普及への努力が傾注されているのを知ることができた。

それほどに、最も近い外国に学ぶものは、事実を確かめ、既成概念に囚われることなく前向きな自己反省の数々の中で、M・R・A精神が、支柱としての大きな重量をもつてくるのである。なるほど最近の日本は、混乱と混乱のうちに病んでいるのである。物質そのものではない、根底となる精神の問題である。そして政治、経済面では、スタ



ソウル国立博物館

グレーションの中、艱難と荊棘の前途ではあるが、国際的な日本の役割は、まことに重大なものであり、韓国の希求し期待されるものを、充分汲み取らねばならないと信ずる次第である。

南北分断のすがた

まざまざと

我々は民族の悲しき姿を、南北分断の非合理性にみるのである。すなわち「三十八度線は我が分けたのではない。米ソ中の大国によって分けられたのである」という現実には、同一民族でありながら分裂国家として南北に分かれたれ、北朝鮮に対する韓国の政策は、徹底した反共産主義となっている。国家予算の三十五％を軍事費に割いている財とエネルギーは、開発、発展

に大きなブレーキとなっても、彼等は当然耐乏を自覚し協力を惜しまないのである。

板門店行きが、会谈準備のため突然中止となり、幸いにも急処、非武装地帯に第二トンネルを見学する機会を得た。何故北から地下百五十メートルの花崗岩盤をくりぬいて、三人並んで通れるトンネルが、掘削されたのか？ 銃剣、機関銃、土囊、迷彩網、と緊迫した最前線歩哨の下で、総てをこの目で確かめてきたのである。そこには「対話のある共存」という言葉は空々しい政治的用語でしかない。我々は真実に忠実でありたいと希うものである。

日本と韓国の関係

陵墓と民家が同居する街、仏

都慶州！ここでの貴重な歴史的、文化的、伝統遺産の数々は、日本歴史の源流であり、仏教文明の芸術と伝統を、たつぷりと味わうことができた。特に石窟庵を訪ね古事来歴を聞くほどに、本質的な人間としての、精神的支えとしての仏教文明の伝承というものを、日本人として深く感銘をうけたのである。日本と韓国！その関わりは脈絡として継続しているものなのである。そして斯かる相互認識は、以外と等閑にされているのではあるまいかと思う。

地球儀を指先でゆつくりと廻してみるがよい。明日への希望と期待をもって、世界の人々が今日も生きて行く。拡がる視野の中で、日本に住む私たちが、今も、これからも、最も大事にしなければならぬものは一体何だろうか！！

彼の地を訪れ日本を顧みるとき、それは「平和と自由を守れ」ということが実感として湧いてくるのを覚えるのである。今こそ、「真の自由」とは何かを、じっくりと噛みしめるときではなからうか。

(九州MRA協会事務局局長)

仏教道德とMRA

関西支部 山内俊平

今日日本人の約8割は仏教徒でありその主流は大乗仏教であるといわれている。そして日本においては仏教の分派活動が盛んでありその数は数百にも及びそれぞれに多少教義を異にしているが、最初にお釈迦さんが説かれた仏教の根本教義である四法印・四諦・八正道等は各宗派とも皆不変の根本教義にしていくものと思う。そしてこの根本教義は宗教というよりもむしろ道德の教えの感が深く、いまわれわれが推進しているMRAの標準道德と対照しながら簡単な考察を試みよう。

あり幸福も不幸も、生も死も一時の仮りの姿であり、そのような固定性のないものからの執着心を捨てよと説く。そして自分が今日あるのは陰に陽に他の人びとや自然の恵みによるものであるから、自分の周囲のものへの感謝せよと説いている。われわれ凡人は嫌いなものや好きになれぬものに対して直ぐ好きになれといつても抵抗を感じて直ぐにはその気になれぬものであるが、仏教で説くようにまず周囲の恩恵を思いそれに感謝の念を抱くと、自然に憎しみや無関心さは消えて相手を愛しようという気持ち芽生えてくる。

まだ「愛」を感得していない人から愛の心を導き出すには仏教の教えは巧妙であるように思う。

このように仏教で説く道德は詳細懇切ではあるがその道德標準が8つもあり、また使われている文句も現



代人には理解しにくい字句がある。現代人の道德標準はなるべく簡明なものが現代向であると思われる。その点MRAの掲げる道德標準の数も4つで文句も判り易く、しかも仏教道德の真髓を捉らえており、現代人の道德標準としては理想的な道德標準であると思う。

私は仏教徒であるが、最初MRAの話聞いたとき、これはキリスト教思想から発展したもののようである。少しバタ臭い匂がすると思ひ、進んでMRAの話聞いてみようとはしなかった。ところがあるキッカケを得てMRAの会員の方々のお話を聞いていくうちに、近頃ではMRAの4つの標準が私の心の鑑になっていることを感謝している。

そしてMRAの四つの道德は仏教徒が信仰するお釈迦様の教

- えと変わりはない、その真髓を述べているのであると深く感じて、最初私がMRAをバタ臭いなどと思ったことは全くなく、私の誤解であり、これからは仏教徒の多い日本人にもこのMRAの精神を胸をはって推し広めてゆきたいと思っている。
- (注) 印とは旗じるしのこと。
- 四法印
 - 宇宙自然観
 - 諸法無我
 - 人生観
 - 一切皆苦
 - 涅槃寂靜
 - 諸法無我
 - 一切のものは固定的な自我性はない。
 - 諸行無常
 - 一切のものは流動変化する。
 - 一切皆苦
 - 宇宙の自然観を達観し、一切のものからの執着心を捨て去る。
 - 涅槃寂靜
 - 欲望を適当に調節するところに真の心の平和がある。
 - 四諦
 - 集諦(因) 人間の知的の誤りや恣なる渴愛(食欲・性欲・苦諦(果) 所有欲)が集まって苦しみの様相を呈している
 - 道諦(因) 八正道の実践
 - 滅諦(果) 苦のない理想郷
 - 八正道
 - 1. 正見 — 縁起の理法により人生や社会を正しく観察 (MRA・What is right?)
 - 2. 正語 — 妄語(いつわり・出鱈目)・悪口・両舌(2枚舌)・綺語(無駄口)の四を禁ず。(MRA・正直)
 - 3. 正思惟 — 正しい精神で慎重考慮 (MRA・What is right?)
 - 4. 正業 — 正しい行為(殺生・偷盗・邪淫を慎む) 進んで困っている人を救う (MRA・無私・愛)
 - 5. 正 — 正しい職業に精励、清らかな生活 (MRA・純潔)
 - 6. 正精進 — 正しい方法により能率的な努力 (MRA・純潔)
 - 7. 正念 — (1) (6)を正しく心に留めて忘れぬ。(MRA・絶対の境地)
 - 8. 正定 — 心を落ちつけて(1)が常に生ずる状態に心身を整える (MRA・純潔)

世界の現状は不安と憂慮の原因にならざるを得ません。国と国、労働者の資本家、階級と階級との間など、いたるところに敵対心が盛り上っています。憎悪と恐怖による犠牲は日一日と増大しています。軌轢と挫折とは、われ／＼の家庭の土台を破かいしつゝ、あります。

このような時代に、個人と国とをいやし、満足の回復を早く与へてくれるという希望をもたらず療法はあるでしょうか？

その療法は、われ／＼が母の膝の下で学んでいたが、すでに忘れてしまったか、それともなおざりにした日常平凡な真理、即ち、正直、純潔、無私、愛にもどることの中にあるのではないのでしょうか？

根本的にいって、現在の危機



は道義上の危機です。この危機に臨んで、国々には道義的に再武装しなければなりません。道義的の回復は本能的には経済的の回復の先駆をなすものであります。絶対正直、絶対無私が満潮の如く盛り上つて国々を洗い流し、そこにどういふ効果が現れるのでしょうか？ 税金はどうなりませうか？ 借財は？ 貯金は？

できる強い力が必要です。これはめい／＼が相手の非をあばく代りに、自分自身の過ちを認めるときに始まります。神のみが人間の性質を変える力を持っています。人間が聴けば神は語り、人間が従えば神は働く、人間が変れば国は変わる、という忘れられた偉大な真理の中に秘訣があります。その力が少数の人の中に積

と意思です。われ／＼はみな取ることを望みますが、指導者たちが変つたら、われ／＼は与へることを欲するようになるでしょう。この新しい精神の中に、経済的の回復を麻痺させている諸問題への解答を発見することができましょう。みな十分に思いやりをもち、十分に分け合うならば、みな十分にうるおうのではないでし

考へてごらん下さい。すべての人びと、男も女も子供も動員され、すべての家庭は城砦とならねばなりません。その目的は単に各人が生活の必需品を十分にもつばかりでなく、MRAを実現し、それによって自分の国の平和と世界の平和を擁護する正当の役割をもつことでありませう。

MRAの発足

フランク・ブックマン

無私の大波が国々にをひと洗いすれば、戦争は跡を絶つてしよう。道義的の回復は危機をかもし出さずに、生活の各方面に亘つて信頼と融合とをつくり出しませう。われ／＼はどうしたら急速に国々には、この道義的の回復を実現することができるでしょうか？ それには人間の性質を変へて、人と人との間に、党派と党派との間に橋をかけることの

極的に働くとき、国家の問題も解決されるでしょう。指導者たちがチェンジすれば、国民の考へ方も変わる。そうなれば世界は安泰になります。われ／＼は世界を再造する者——これは普通の人びとの考へであり、希望ではないでしょうか？ 大概の人間は他の人が正直になり、他の国が自分の国に対して平和であつてほしい

ようか？ 世界には各人の必要を満たすだけのものは十分にあります。しかし、各人の貪慾を満たすに足るだけのものはありません。このようにしてMRAの計画に参加できる失業者の数を考へてごらん下さい。国々にを安定にし、安泰と正気さをとりもどす仕事に一人残らずの人間が引きつけられ、糾合された状態を

また、ある労働組合指導者はい、ました。「私は労働運動が勝利するのを見たが、勝利の中に一種の空虚を感じていた。オックスフォード・グループは私の生活に新しい内容を与へてくれた。私はオックスフォード・グループのもたらすもの、中に

世界の労働運動と産業の将来を
ひらく唯一の鍵を見出す」と。

人びとの中に新しい精神が
きてこそ、初めて産業の中にも
新しい精神ができます。産業は
新しい秩序の先駆者となり、利
己主義の代りに国家的奉仕の精
神をもち、神の導きを基礎とし
て産業の計画を打ちたてること
ができます。労働者と経営者と
資本家とが神の導きの下に協力
するとき、産業は国民生活の中
で本来の使命を果すようになり
ます。

**新しい人、新しい家庭、新し
い産業、新しい国、新しい世界。**

われ／＼は、まだ神の心の中
にある偉大な創造的源泉から汲
みとっていません。神には計画
があります。結合された国民の
道義的、精神的な力をもってす
れば、その計画を見つけること
ができます。

われ／＼は、世界を再造する
ことのできる強力な道義的、精
神的な勢力をつくり出すことが
できます。否つくり出さねばな
りません。必ずつくり出すので
す。

(これはいまから三十余年前、
ヒットラーがオーストラリ
ヤに進駐した頃の一九三八

年五月二十九日、イギリス
労働運動の発祥地であるロ

ンドンのイースト・ハム公
会堂で博士が演説したもの)

M R A と私

狩野 安

(旧姓加藤)

早いもので、私がMRAを離
れて十七年位になる。先日、相
馬雪香さんに「あなたにとつて
MRAの中で一番心に残ってい
る事は何かしら」と、質問され、
一瞬「ウン」と返事に困って
しまった。口では表わせないう
か、私の心の中に残っている
ことは確かなのだが、この機会
に改めて考へてみた。

チエンジするという言葉が、
MRAの中にあるが、MRAに
よつて私はたしかに変わった。変
つたといっても、私の人間性、
性格が変わつたわけではない。

まず私が何かしようとする時、
私の意見をのべようとする時、
他人に相談を受けた時、私の頭
に浮かぶのは四ツの道德標準、
絶対正直、純潔、無私、愛に照
らしてみること。そのために自

分のためだけの利己的な考へが
捨てられ、周りの人の立場にな
つて物事を考へることが自然に
できるようになつたことである。
私はあの人のために、あれだ
けやつてやつたのに、あの人は
何もしてくれない等の不満もお
きず、誠心誠意、人のためにつ
くすことができるようになった
ことである。

勿論、私は家庭の平凡な主婦
であり、子供二人の母親ですか
ら、悩みも、悲しみも、喜びも
あるけれど、悲しみ悩みにぶつ
かつた時に、四ツの標準に自分
の心を照してみると、それが悲
しみに打ち勝つというファイ
トがわいてくる。

私は、私のために、私の家族
のために生きているのではなく、
ちつぽけな私でも、私の生き方

によつて国の生き方、世界の生
き方が変わるという自負、そして
私だけでも、国の毒にならない
生き方をしようと思つている。
私の目はいつも世界に向けて、大
きく開こうと努力している。

私は社会の一員として生きて
いるので、毎日／＼が幸せで充
実した日を過している。自分で
も不思議な位である。

もう一ツ、私の頭の中を離れ
ないことは、ブックマン博士の
お言葉で「世の中に必要な物は
あるけれど、人間のどん慾を満
たすものはない」ということで
この精神を貫いている。

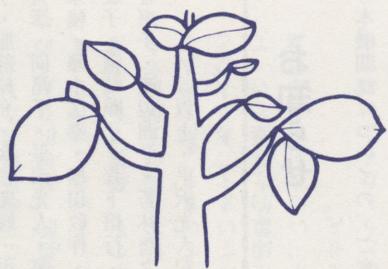
それから「**動機**」は何かしら、
と考へること、これは大事なこ
とだと思つている。例えば、子
供の進学の問題にしても、まず
私の動機は何か、を考へ、子供
にとつて何が正しいかを考へて
いくと、ものを正しくハッキリ
と見ることができるようになつ
てくる。

「貴方はハッピーそうね」と
加藤シズエ先生にもいわれたけ
れど、私は自信をもつて「ハイ」
と答えることができた。念をお
しますが、すべてが満たされ環
境が良いから幸せだ、というの
ではない。MRAによつて私の

心が自由になり、大きな視野を
もつて物事を見ることができ
ようになつたから幸せになつた
のである。

私は若い方々に、どん／＼M
RAを知っていたゞきたい。私
と同じように幸せになつていた
ゞきたい、と思つている。今年
の夏のスイスのコーの大会にも
茨城県から代表を送りたいと思
つている。

最後に、私の大きな夢とい
うか、希みというか、いま一番、
私の欲しいものはお金、世界一
の金持になりたい。お金持にな
つて何をするか、といえば、日
本の青年をどん／＼スイスのコ
ーの大会に、私のお金で行かせ
たい。これが私の夢である。
現実はまだにも厳しすぎる
が。



大阪部会報告

個人の実践と組織活動を 両輪として……………

敬虔な宗教的信条を支柱とする個人の内面的練成とその家庭での実践を主流とする行き方、そして、志を同うする有力者有志の集まりにする相互支援・切磋を期してのグループ活動―ジバ関西など、大阪MRA運動にも、その両面で永い歴史があった。しかし、各地のそれと同様に、過去十年近く、休眠状態がみられたが、東京での呼びかけに応じ、昨春来、徳光さん、生尾さん、平位さん、鈴木さん、山内先生、住友さんらを中心に再出発の方向が探究され、平沢を連絡係として、始めての集会を持ったのは六月九日（大阪法華クラブ）であった。

動の再出発の意義深きことを確認し、過去の反省を基に、より確かな、そして他人に押しつけ与えられるものでなく、内から溢れるものを大切にして新しく出直すことが話し合われた。さらに七月二十六日には、設立総会後の状況報告と大阪部会の激励のために、わざわざ柳沢さんが来阪下さり、主な世話人と親しく懇談していただき、これを承けて八月中大阪部会の組織づくりの打合わせを数回、徳光さんの御厚意で花外楼で持ち山内代表・生尾・徳光・平位・住友・鈴木・平沢の七人が世話役を引受けて毎月第四金曜日の午後六時に例会を開くことなどがまとまり、大阪MRA第一回研究会が九月二十六日、駅前好文クラブで開かれる運びとなつた。

世話役一同の期待と不安の内、大阪部会の将来を占うとみられたこの第一回集会是、住友さん夫妻のお骨折りもあって二十六名の熱心なメンバーが参加され、会場係がリスト作成に疲れるほどの盛況となつた。

以後十・十一・十二月と日立造船の御厚意により日立会館でMRA紹介やソング・オフ・アジア紹介の映画上映や解説、体験発表、山内先生の仏教道徳とMRAについての研究報告、参加者全員による意見発表などが行われ、実り多い集会を続けて昭和五十年が終つた。

東京（中央）に比し、大阪（地方）は、政治的危機感の認識において多少のズレなしとしないとして、かえってそのことが、スーパー・イデオロギーを標榜するMRA運動を、より純粹に個々人の思想的宗教的思惟の内へ深く着実に定着浸透し得るメリットもあるといえよう。そして、あくまでも個人の日常生活の場での実践と、グループとしての組織活動は車の両輪として欠かさないものであるといえよう。

日本は今、政治も経済も教育も、MRA精神により建て直しが必須とみられ、多くの人々がMRAメンバーの呼びかけを待望している。

自己の固い殻から抜けられず

に苦しむ人には力を貸そう。たとえ自分は無力でも、心の泉は無尽なはずである。たとえこの拳は小さくても、まごころをこめて精一ぱい叩けば、厚い鉄の扉も開くにちがいない。四つの基準を信ずる者は、これを志向しない者へのファイトも躊躇してはならない。そうしながら、自らもまた高まるのである。

MRA新出発の方向については、会報No.4の寒河江さんの反省、そして「再武装」の語についての西川さんの所見に同感の人が大阪部会には多くいることを附記して報告を終わります。

お知らせ

子・服部玲介・久松慶暉・平沢寅彦・同昌子・平沢光人・藤原栄暢・藤木広泰・増田敬作・同敏子・宮崎順子・森下信行・横谷恵子・渡辺洲平・若林喬之
(以上・平沢光人記)

◎大阪部会メンバー紹介

(集会出席者のみ・
敬称略)

山内俊平・生尾頼尾・徳光憲

・平位勉・住友義輝・同美子・

鈴木宗治・朝日昭三・同智子・

伊藤徳一・稲葉清市・大村治・

沖田幸治・大西由喜子・加藤世

視男・兼松正・同衣枝・上伊倉

寛・桑山季子・小林昌則・五味

佳雄・齊藤基樹・菅沢晴子・高

岡政一・高牟礼軍蔵・辰野ゆか

り・民実徹・田中凱男・高野良

作・時田幸男・中島清・橋田明

○本機関誌についての、ご意見
ご感想を左記へお寄せ下さい。
〒一五一
東京都渋谷区代々木一ノ三八
ミヤタビル七〇五
国際MRA日本協会宛

○また入会を希望されます方は
協会宛御申込下さい。資料を
お送り致します。会費は、年額
で一口口正会員五千円、賛助
会員三千円法人会員五万円で
す。

○事務所の電話番号は

〇三―三七四―七六〇〇

○協会の口座番号は

第一勧銀代々木支店一六三一―

一〇一四三三六(国際MRA

日本協会宛)
